

令和7年度 第1回『人生会議 ACP』事例検討会

まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会終末期グループでは、年3回事例検討会を開催し、毎回多くの医療・介護関係者のみなさまに、ご参加いただき意見交換を行うことで ACP について学びを深めています。令和7年7月24日、令和7年度第1回目の ACP 事例検討会を開催し、51 名の医療・介護関係者のみなさまに、ご参加いただきました！ 今回の事例検討会のテーマは「高齢者施設入所者の ACP」です。



1. ミニレクチャー

『やくも光陽の里における ACP に関する取り組み・現状』

特別養護老人ホームやくも光陽の里 施設長 石原 泰仁 氏

“施設での ACP に関する取り組みについて” “施設において本人の意向を尊重した最期を迎えるためには ACP の普及・啓発に取り組む必要がある”等のお話がありました！

2. 事例紹介：『介護施設における食事拒否高齢者の対応について』

✓ 発表者 地域密着型サービス事業所あさひ乃苑 苑長 岡田 昌治 氏

泉胃腸科医院 理事長 泉 明夫 氏

✓ コメンテーター 伊藤医院 院長 伊藤 健一 氏

事例紹介では、岡田氏から食事拒否をする入所者の事例について、臨床倫理の4分割表(JONSENの4分割表)を用い、胃瘻造設を含めた ACP の多職種支援について説明いただき、泉先生からは“終末期とは、どういった状態なのか”“末期の判断”等について、お話しいただきました。

コメンテーターの伊藤先生からは、“近年は「食べられない原因」がさまざまあると考えられていて、一時的に胃瘻から栄養補給しても、再度経口摂取ができるようになる可能性はある。胃瘻という選択肢を含め柔軟に検討をしていくと良いのではないか”というコメントをいただきました。

グループトーク

グループトークでは、活発な意見交換が行われました！

(意見の一部)

○施設の ACP の取り方は、緊急時の対応のみになっていることが多い。どういう最後を望むかを入所前から話し合って欲しい。

○胃瘻は、支援者の説明の仕方で受け取り方が違う。

実例などを伝えながら、意思決定を後押ししている。

○終活ノートを作成するメリットがもっと市民に伝わるとよい。



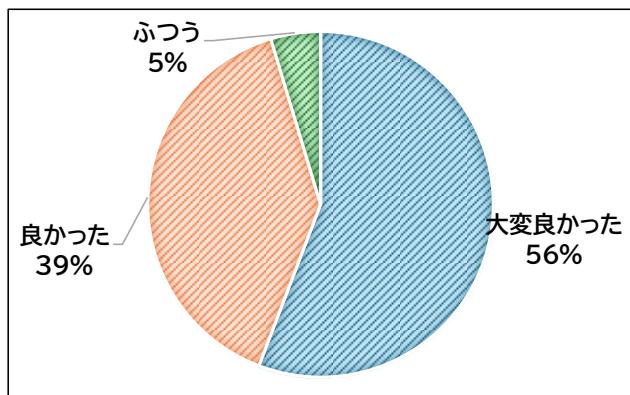
★次回開催は、令和7年11月13日(木)18:30～「身寄りのない人の事例」を予定

R7年度 第1回ACP事例検討会 アンケート結果

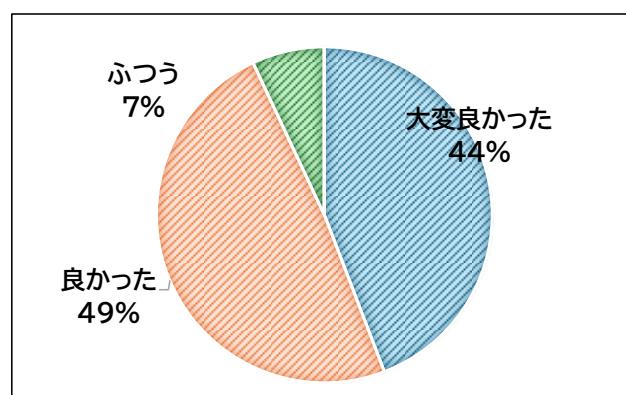
●回答人数：43名（回収率：95.6%）

2025.7.24

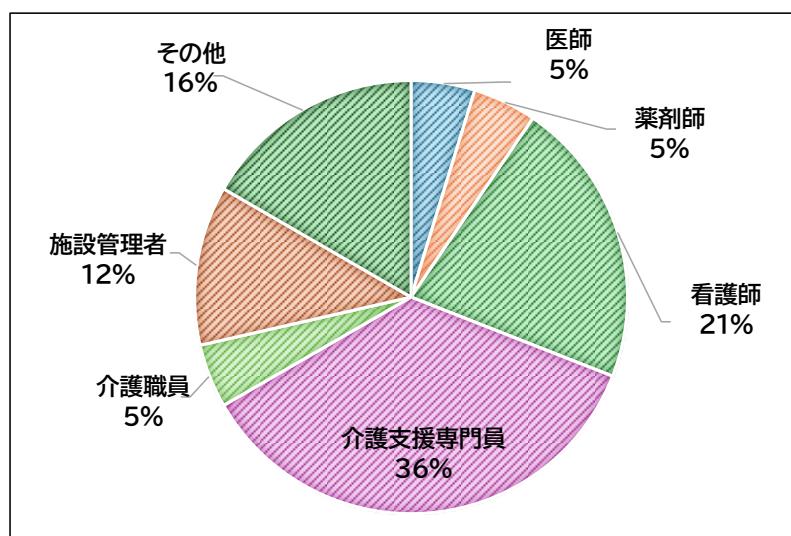
問1. 事例検討会の内容について感想を伺います



問2. 事例検討会の形式について感想を伺います



問3. 職種を伺います



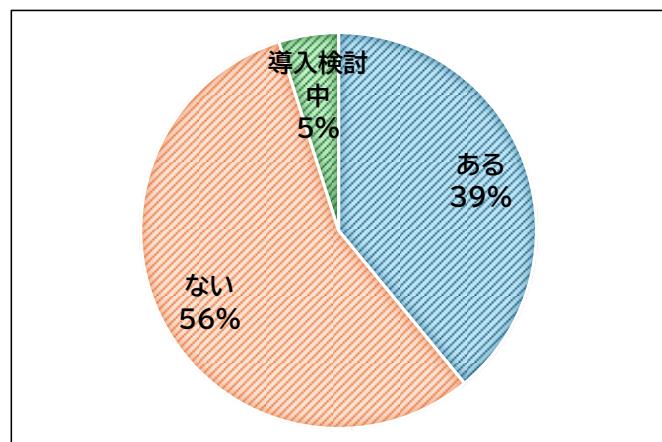
問6. 今後事例検討会で希望する疾患等

- がん疾患等
- 身寄りのない人の支援
- 施設における事例

【感想等自由意見】

- ・他施設の取り組みや意見交換出来て良かった
- ・色々な職種・施設の方の意見が聞けて大変良かった
- ・初めての参加で様々な意見が聞けて良かった
- ・グループトークで経験談が多く、事例について深めることができなかった

問4. 自施設内でACP事例検討会を行ったことがありますか？



問5. 患者又は利用者の情報提供の際にACPに関する情報を必要時記載していますか？

